

ノートルダム大聖堂はセーヌ川のシテ島の中心に建つゴシック様式の寺院である。寺院の正面西側に大きな広場があり、聖堂へのアプローチは広場を経由する。広場は観光客で賑わいを見せていた。

この聖堂はパリの中心に位置し、パリからの距離はこの広場が起点になっているという説があり、ナポレオン1世の皇帝即位式に使われた場所でもある。

寺院の中は薄暗く、南側の通路を通して奥へ進み、中央祭壇の裏をまわり、北側の通路を通して元の入口に戻るといった回遊するルート設定がしてあり、途中にはキリストの生誕から最後の晩餐までの物語が荘厳なステンドグラスやレリーフに描かれている。また、聖堂の模型も展示されており、東西に違う顔を持つこの聖堂の全体像や建設中の風景を見て取ることができた。

